



平成30年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年7月14日

上場会社名 株式会社ドトール・日レスホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3087 URL <http://www.dnh.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星野 正則

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 木高 毅史

TEL 03-5459-9178

四半期報告書提出予定日 平成29年7月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第1四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第1四半期	33,054	6.0	3,207	10.4	3,192	8.8	2,076	21.9
29年2月期第1四半期	31,183	△0.1	2,905	8.2	2,934	4.6	1,703	5.8

(注) 包括利益 30年2月期第1四半期 2,011百万円 (18.9%) 29年2月期第1四半期 1,691百万円 (6.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第1四半期	43.72	—
29年2月期第1四半期	35.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第1四半期	126,498	100,763	79.6
29年2月期	124,843	99,461	79.6

(参考) 自己資本 30年2月期第1四半期 100,663百万円 29年2月期 99,364百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	15.00	—	15.00	30.00
30年2月期	—				
30年2月期(予想)		15.00	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	65,194	2.3	5,995	1.5	6,089	3.5	3,481	1.8	72.90
通期	131,000	3.2	11,021	4.8	11,203	4.9	6,247	3.3	130.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期1Q	50,609,761 株	29年2月期	50,609,761 株
② 期末自己株式数	30年2月期1Q	3,120,289 株	29年2月期	3,120,116 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期1Q	47,489,604 株	29年2月期1Q	48,189,899 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成29年3月1日～同年5月31日）におけるわが国経済は、緩やかに拡大する世界経済を背景に、その恩恵が徐々に広がるとともに、政府・日銀による継続的な経済対策や金融政策の効果から雇用情勢の改善をはじめとした緩やかな景気回復基調で推移しました。しかしながら、雇用環境の改善は賃金の上昇を伴わず、また、物価上昇の懸念もあることから、消費全般が回復する力は十分とは言えず、依然として先行き不透明な状態が継続しており、楽観視はできない状況で推移しました。

外食業界におきましても、原材料価格の上昇懸念や物流コストの上昇などにより、国内景気を下押しするリスクが存在することから、お客様の選別は一層厳しくなり、根強い低価格志向は変わらず、消費の動向は予断を許さない状況が継続しております。また、人手不足を背景とした人件費の上昇なども一段と高まるなど、経営環境は一層の厳しさを増しております。

このような状況のもとで、当社グループは、「外食業界におけるエクセレント・リーディングカンパニー」の地位確立を目指し、立地を厳選してグループ全体で16店舗（直営店7店舗、加盟店8店舗、海外1店舗）を新規出店しました。

既存事業においては、積極的な新メニュー開発や新規業態の立ち上げ、顧客の嗜好にあわせグループ全体で3店舗の業態変更をしたほか、業務の効率化を推進するとともに、ブランド価値の向上を目指した改装を継続して推進するなど、事業基盤の強化に努めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高330億54百万円（前年同期比6.0%増）の増収、営業利益32億7百万円（前年同期比10.4%増）、経常利益31億92百万円（前年同期比8.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益20億76百万円（前年同期比21.9%増）となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

(日本レストランシステムグループ)

日本レストランシステムグループでは、引き続き「星乃珈琲店」を新規出店するなど、お客様のご要望にお応えできるよう、店舗網の拡大に努めました。また、経営戦略の一つである立地環境や顧客層等に応じた肉料理業態への業態変更も推し進め、お客様のニーズを的確に捉えており堅調に推移しております。

なお、カフェ業態である「星乃珈琲店」、「OSLO COFFEE」の展開や肉業態の高価格ブランドを店舗展開していることから業態に応じた店舗オペレーションに注力し、お客様の満足やブランド価値の向上に努めております。商品戦略につきましては、引き続き、マーケティング力の強化に努め、既存ブランド、新規ブランドともに商品力を高めることでお客様にご満足頂ける商品を提供すると同時に、多ブランド展開における効率化を考慮した商品開発を実施し、原価管理を徹底しております。

以上の結果、日本レストランシステムグループにおける売上高は107億95百万円（前年同期比4.1%増）、セグメント利益は14億1百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

(ドトールコーヒーグループ)

ドトールコーヒーグループの小売事業及びフランチャイズ事業においては、ドトールコーヒーショップやエクセルシオール カフェを中心に、今期のテーマ「MADE IN JAPAN ～厳選された国産素材の提供～」を軸に、季節に合わせた魅力ある商品作りに注力いたしました。

ドトールコーヒーショップでは、国産あずきを使用した「宇治抹茶フローズン」や葉とらざりんご“サンふじ”を100%使用した「青森県産りんごストレートジュース」などを、エクセルシオール カフェでは、国産の「パイナップル」と「白桃」を使用し、ヨーグルトを加え、ほどよい酸味をプラスしたフローズンドリンクなどを発売し、お客様から大きなご支持を頂きました。また、ドトールバリューカード(プリペイド方式のカード)を中心とした販促を展開することで、お客様の利用頻度が高まるなど、既存店の業績は順調に推移いたしました。

卸売事業においては、ドリップコーヒーやコーヒー原料などの販路および取引先の拡大、またコンビニエンス・ストアを中心にチルド飲料など定番商品と新商品の継続的な投入に注力したほか、他企業とのコラボレーションなど新たな商品の開発・販売をはじめると、引き続き業容拡大に努めた結果、売上を大きく伸ばすことができました。

以上の結果、ドトールコーヒーグループにおける売上高は204億16百万円（前年同期比7.4%増）、セグメント利益は14億51百万円（前年同期比20.9%増）となりました。

(その他)

報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に国内及び海外における外食事業に係る小売及び卸売りに関する事業となります。売上高は18億42百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益は3億19百万円（前年同期比33.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、季節的要因による営業拡大に伴う売掛金の増加等により1,264億98百万円と前連結会計年度末と比べ16億55百万円の増加となりました。負債は、未払法人税等が減少となったものの、買掛金の増加等により257億35百万円と前連結会計年度末と比べ3億53百万円の増加となりました。純資産は、剰余金の増加等により1,007億63百万円となり前連結会計年度末と比べ13億1百万円の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今期の見通しにつきましては、物流費や人件費などのコストの上昇が見込まれ、また消費者の根強い低価格志向など生活防衛意識に大きな変化は期待できず、外食産業を取り巻く環境は、より一層厳しいものになると想定されます。

このような環境の中、当社は既存事業の安定成長を目指し、新商品の開発を含めた商品力のアップや新規出店強化、新業態開発のほか、改装を含めたブランド価値の再構築に努め業容拡大することにより、第2四半期連結累計期間および通期の連結業績見通しにつきましては、平成29年4月14日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,414	37,764
受取手形及び売掛金	7,485	8,438
商品及び製品	1,675	1,833
仕掛品	106	102
原材料及び貯蔵品	1,726	1,779
繰延税金資産	892	999
その他	3,340	3,777
貸倒引当金	△9	△11
流動資産合計	52,632	54,684
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,633	21,582
機械装置及び運搬具（純額）	952	910
土地	16,358	16,579
リース資産（純額）	4,419	4,303
その他（純額）	1,387	1,361
有形固定資産合計	44,750	44,737
無形固定資産	1,224	1,151
投資その他の資産		
投資有価証券	958	757
繰延税金資産	1,567	1,510
敷金及び保証金	20,160	20,133
その他	3,548	3,523
投資その他の資産合計	26,235	25,924
固定資産合計	72,210	71,814
資産合計	124,843	126,498

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,838	7,617
短期借入金	570	570
未払法人税等	2,276	1,224
賞与引当金	1,243	653
役員賞与引当金	80	20
株主優待引当金	90	-
その他	7,216	8,676
流動負債合計	18,314	18,763
固定負債		
リース債務	1,345	1,257
退職給付に係る負債	2,071	2,081
資産除去債務	1,337	1,327
その他	2,312	2,306
固定負債合計	7,066	6,972
負債合計	25,381	25,735
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	25,858	25,858
利益剰余金	76,511	77,875
自己株式	△4,080	△4,081
株主資本合計	99,289	100,653
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	189	124
繰延ヘッジ損益	△34	△42
為替換算調整勘定	101	97
退職給付に係る調整累計額	△182	△169
その他の包括利益累計額合計	74	10
非支配株主持分	97	99
純資産合計	99,461	100,763
負債純資産合計	124,843	126,498

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
売上高	31,183	33,054
売上原価	12,046	13,424
売上総利益	19,137	19,629
販売費及び一般管理費	16,231	16,422
営業利益	2,905	3,207
営業外収益		
受取利息	10	8
受取配当金	0	1
不動産賃貸料	17	16
持分法による投資利益	1	-
その他	22	21
営業外収益合計	51	47
営業外費用		
支払利息	3	3
不動産賃貸費用	9	9
為替差損	5	11
持分法による投資損失	-	37
その他	4	0
営業外費用合計	22	62
経常利益	2,934	3,192
特別利益		
固定資産売却益	0	2
投資有価証券売却益	-	69
特別利益合計	0	71
特別損失		
固定資産除却損	14	6
減損損失	64	92
その他	9	-
特別損失合計	88	99
税金等調整前四半期純利益	2,846	3,165
法人税等	1,134	1,097
四半期純利益	1,712	2,067
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	8	△8
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,703	2,076

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)
四半期純利益	1,712	2,067
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27	△65
繰延ヘッジ損益	△41	△7
為替換算調整勘定	△15	3
退職給付に係る調整額	9	12
その他の包括利益合計	△20	△56
四半期包括利益	1,691	2,011
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,679	2,011
非支配株主に係る四半期包括利益	12	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社を株式会社とする当社グループは、2つの中核事業会社を基礎としたセグメントから構成されており、「日本レストランシステムグループ」、「ドトールコーヒーグループ」を主な事業セグメントとしております。

「日本レストランシステムグループ」は、主に直営店におけるレストランチェーンを運営しており、食材の仕入、製造及び販売までを事業活動としております。

「ドトールコーヒーグループ」は、主に直営店及びフランチャイズシステムによるコーヒーチェーンの運営をしており、コーヒー豆の仕入、焙煎加工、直営店舗における販売、フランチャイズ店舗への卸売りやロイヤリティ等の収入、また、コンビニエンスストア等へのコーヒー製品の販売を事業活動として展開しております。

II 前第1四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本レストラン システムグループ	ドトールコー ヒーグループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	10,373	19,009	29,382	1,801	31,183	-	31,183
セグメント間の内部 売上高又は振替高	339	134	473	1,139	1,613	△1,613	-
計	10,712	19,143	29,856	2,940	32,796	△1,613	31,183
セグメント利益又は損失 (△)	1,491	1,200	2,692	240	2,932	△27	2,905

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に国内及び海外における外食に係る小売及び卸売りに関する事業となります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△27百万円には、主として親会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用213百万円及びセグメント間取引消去193百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本レストランシステムグループ」及び「ドトールコーヒーグループ」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「日本レストランシステムグループ」で11百万円、「ドトールコーヒーグループ」で41百万円、「その他」で12百万円であります。

Ⅲ 当第1四半期連結累計期間（自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本レストラン システムグループ	ドトールコーヒー グループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	10,795	20,416	31,212	1,842	33,054	-	33,054
セグメント間の内部 売上高又は振替高	339	115	454	1,156	1,610	△1,610	-
計	11,135	20,531	31,666	2,998	34,665	△1,610	33,054
セグメント利益又は損失 (△)	1,401	1,451	2,852	319	3,172	35	3,207

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に国内及び海外における外食に係る小売及び卸売りに関する事業となります。
2. セグメント利益又は損失の調整額35百万円には、主として親会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用159百万円及びセグメント間取引消去201百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本レストランシステムグループ」及び「ドトールコーヒーグループ」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「日本レストランシステムグループ」で4百万円、「ドトールコーヒーグループ」で87百万円、「その他」で0百万円であります。